

(2) 適性診断業務

(中期目標)

診断内容の高度化、受診者・事業者利便の向上等を図るため、診断機器の研究開発・導入を行うこと。

(中期計画)

効果を勘案しつつ、自動視野測定機の導入、アイカメラ・シミュレーターの開発・試行導入など機器の充実を行い、認知分野も含めた診断内容の高度化を図る。さらに貸出し用自動診断機器の開発を行い、全国に配備し、受診者・事業者の利便性を向上させる。

(年度計画)

業務実績等を踏まえつつ、更に、自動視野測定器を10台以上導入し、受診者・事業者の利便性を向上させる

また、アイカメラ・シミュレーターについては、診断結果コメント案を作成した後に、主管支所に試行導入し、その評価を行う。

年度計画における目標設定の考え方

- 自動視野測定器は、利用希望者数の多い支所を優先に導入することとした。
- アイカメラ・シミュレーターは、主管支所に試行導入し、同機器を用いた診断の実施方法・実施体制の確立等を図るため、受診者の意見・評価、診断員の意見・評価等を調査することとした。

当該年度における取組み

平成18年度における取組み

- 自動視野測定器 は、診断内容の高度化を図るため、利用希望者数の多い支所を優先に、改良型を昨年度に引き続き、12台導入した。



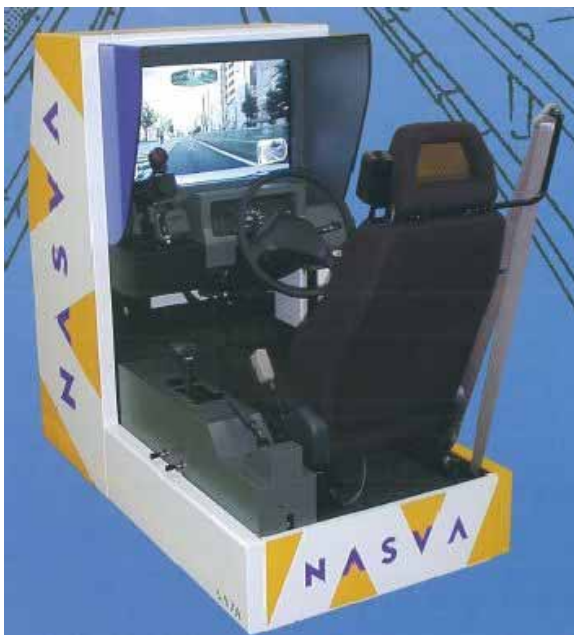
項 目	導 入 機 器 仕 様
形 態	274(幅)×332(奥行)×307(高さ)mm
重 量	4.6kg
仕 様	スクリーニングポイント 77
付 属	インターフェイス(簡易プリンタ内蔵)
最大視野度	10,000ASB
ドーム範囲	300mm
測定時間	約3分(両眼で機器セット時間込み)
自動視野測定器とは、緑内障等による視野狭さを、全方位にわたり検査する視覚機能測定機器	

- 診断の高度化を図るため、アイカメラ・シミュレーターについては、昨年度の「アイカメラ・シミュレーター検討委員会」の意見を受けて、測定までの準備時間を短縮し、運行管理者が測定結果を活用しやすいように、受診者の目の動きの記録を無事故運転者の記録とともに、一枚のDVDに記録し、提供できるよう改良を加えた。
また、診断結果コメント案を作成した後に、2月に東京主管支所に試行導入し、利用者等の評価を行った。

■ アイカメラ・シミュレーターの概要

- ・ 実写映像を用い、現実に近い交通場で診断することができる。
- ・ 非接触型のアイカメラを搭載し、受診者にストレスを与えずに目の動きを観察、記録することが可能。
- ・ 事業用車両（バス、ハイタク、トラック）の違いを考慮して、それぞれの業態に応じた運転映像を提示させることが可能。
- ・ 受診者の運転行動と目の動きを同時に記録可能。
- ・ 記録された運転行動と目の動きを再現させることが可能。
- ・ 受診者の記録と無事故運転者の記録とを一枚のDVDに記録して提供することが可能。

アイカメラ・シミュレーター



東京主管支所での試行実施



優良者と事故惹起者の目の動き



■ 利用者の評価等

- ・ 日頃の運転では、どこを見ながら運転しているかなどあまり意識していないが、アイカメラ診断によって、自分の視線の動きを確認でき、参考となった。
- ・ 対向車など、前方から来るものへの視線は動いている、ミラーに対しては視線がほとんどいかず、後方に対する注意が不足していることがわかった。
- ・ 結構、左右にも目を配っていることが確認できて安心した。
- ・ 優良運転者と比較でき、安全教育に役立つと思う。
- ・ 速度感覚やアクセル・ブレーキの感覚が実際の運転とは違い、シミュレーターの機器に慣れるまでもう少し時間があつたほうが良いように思う。

■ アイカメラ・シミュレーターの交通安全フェアへの出展

周知活動及び情報収集等の一環として、同機器を交通安全フェアや交通安全アクション2006に出展し、広くPRするとともに、受診体験者から受診後の感想や評価に関する情報を収集した。結果をフィードバックすることにより「ほとんど前しか見ていない自分の特性がよくわかった。」「安全教育に役立つ有効な機器である。」という声などを聞くことができた。

■ その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

■ アイカメラ・シミュレーターについてのテレビ取材

- ・ TBSの生活情報番組「2時チャオ！」の特集コーナー（平成18年11月30日放送）

ペーパードライバーの運転者と運転のインストラクターの方とで、注意の仕方や目の配り方がどれくらい違うのかを、アイカメラ・シミュレーターの受診体験から、認識を深めてもらい目線や注意の違いを理解することにより事故防止につながることを紹介した。

（中期目標）

診断結果を運転・運行管理に効果的に活用するため、助言内容の充実やカウンセリングの実施や指導講習との有機的な連携により、診断結果をより一層わかりやすく適切に提供すること。

（中期計画）

業態別等の診断結果の助言内容の充実、最新の事故事例研究・分析に基づくカウンセリング技法や小集団技法等の向上による助言指導の充実を図るとともに、運行管理者を対象とした適性診断活用講座を中期目標期間中に全支所において実施する。

（年度計画）

平成 17 年度に引き続き重複作業反応テストの結果に基づく助言内容を業態別等に改良するとともに、引き続き、最新の事故事例研究・分析に基づく診断技法について、全カウンセリング担当職員に対し、研修を実施し、適性診断の質を向上させる。

また、引き続き、全支所において適性診断活用講座を実施する。

年度計画における目標設定の考え方

- 業態別の診断結果を充実させるため、前年度（平成17年度）に引き続き、残りの重複作業反応テストの助言内容について、診断結果に反映できるよう改良することとした。
- 前年度（平成17年度）に引き続き、最新の事故事例を適性診断に反映させるため、全カウンセリング担当職員に対して最新の事故事例研究分析に基づく診断技法の研修を実施することとした。
- 平成17年度より全支所にて実施している適性診断活用講座を、さらにトップセールス等によりその活用効果をPRし、受講者を増やすこととした。

当該年度における取組み

平成18年度における取組み

- 改良が残されていた重複作業反応テスト（動作の正確さ）の助言内容について、適性診断結果から予想される運転行動の例を記載し、より具体的に業態別に記述することにより適性診断結果と運転行動の関係がイメージしやすくなり、運転者にとってはわかりやすく、管理者にとっては助言・指導しやすくし、コメントを5種から20種類へと改善した。

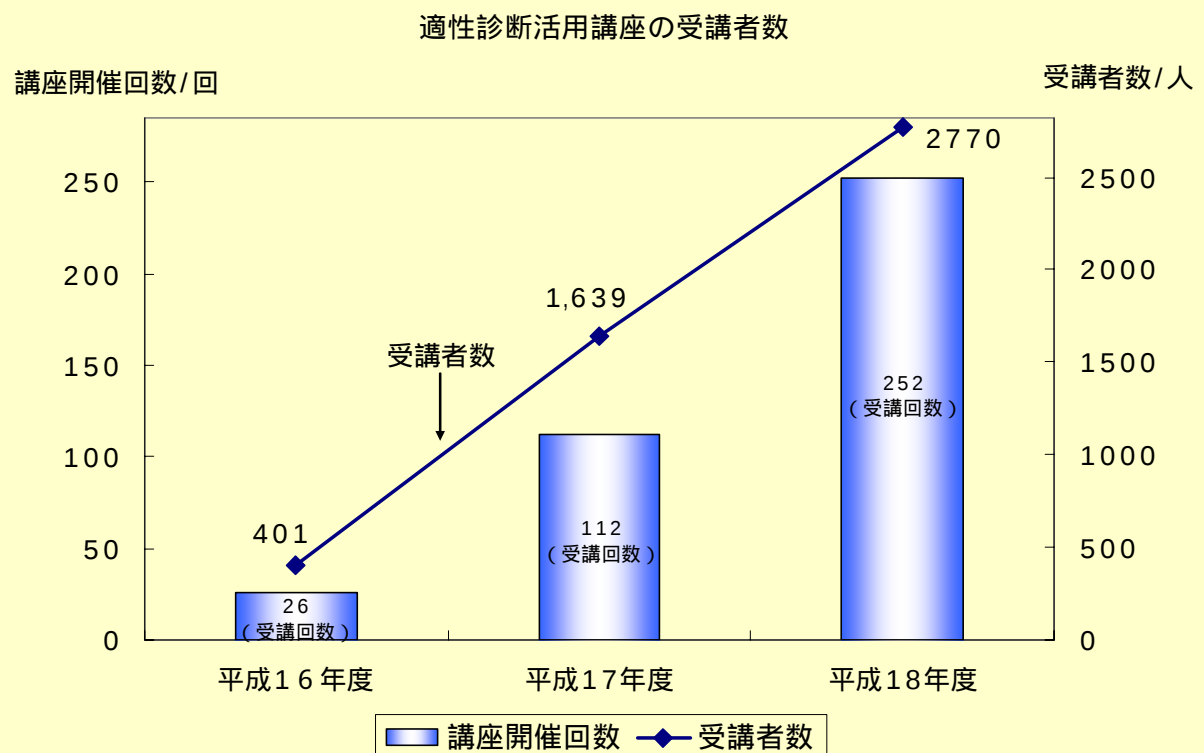
- 全カウンセリング担当職員に対して最新の事故事例研究・分析に基づく診断技法の研修を実施した。

- ・全カウンセリング担当職員（特定適性診断員）教育・訓練
- ・対象者 119人
- ・研修項目 最新の事故事例研究・分析に基づく診断技法

「自動車運送事業に係る交通事故要因分析報告書（平成17年度）」にある事故事例から運転者に係る「問題点の考察」と「対応策の検討」を参考に、事故再発防止のための効果的な助言指導を行えるよう、小集団による事例検討を行い診断技法の向上を図った。

- 適性診断活用講座については、平成18年度は、さらに開催回数を増回し、より多くの運行管理者等の方に受講してもらえるようトップセールス等によりPRに努めた。

その結果、前年度（平成17年度）に比べ1,131人（69%）受講者が増加した。



- アンケートによる受講者の評価
 - ・適性診断受診結果の正しい使い方がよく理解できた。
 - ・個々の運転者に気づきを与え、考えさせることが大切で、その手法を学ぶことができた。
 - ・個別に助言・指導ができればよいが、その時間がなかなか取れない。
 - ・助言・指導の際、まず、運転者の話を傾聴することが大切であることを知った。
 - ・講座に参加して他社の運行管理者の良い指導方法を学ぶことができた。

その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

（中期目標）

職員の資質の向上を図るため、研修制度の充実、カウンセリング技術の取得等を行うこと。

（中期計画）

職員の資質を向上させ、助言指導を充実するため、計画的に職員への研修を実施し、中期目標期間中に診断業務担当職員の80%以上に産業カウンセラー資格を取得させる。

（年度計画）

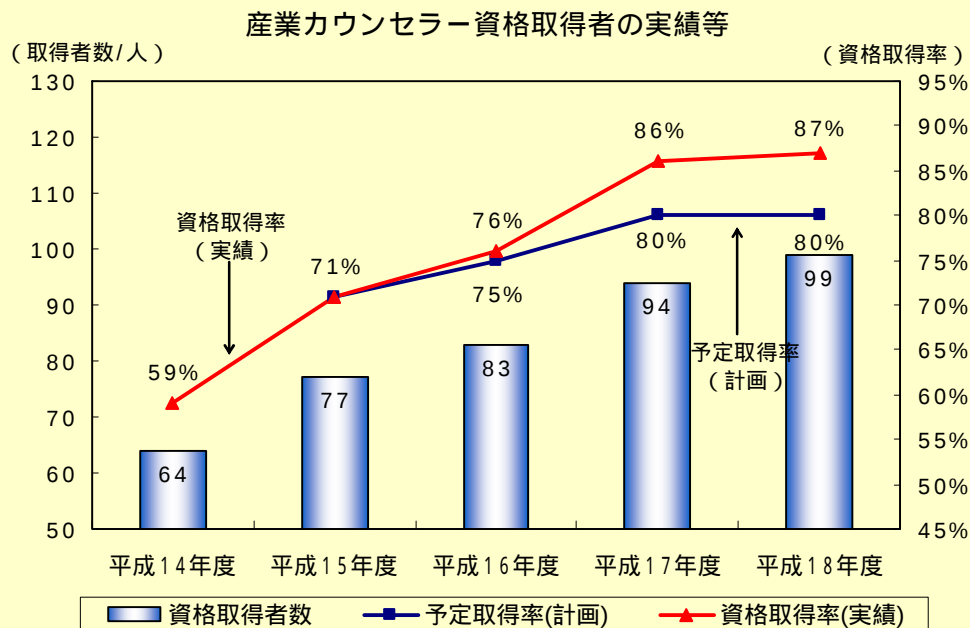
産業カウンセラーの資格取得研修を計画的に実施し、適性診断担当職員の80%以上の有資格職員を維持する。

年度計画における目標値設定の考え方

中期計画に基づき、産業カウンセラー資格取得計画により、適性診断担当職員のうち80%以上に産業カウンセラー資格を取得させ、有資格職員を維持することとした。

実績値

- 平成18年度適性診断業務担当職員のうち87%の職員が産業カウンセラー資格を取得した。



実績値が目標に達しない場合にはその理由

その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

（中期目標）

受診者・事業者のニーズや活用状況を適切に把握し、その結果を適性診断の内容、診断結果の提供等に反映すること。

（中期計画）

事業者の運行管理における診断結果の活用を促進するため、支所からオンライン化により得られた全国的な診断結果データを地域別、事業者別、業態別、年齢別に解析し、個人情報の保護を図りつつ、事故防止に資する情報として事業者及び関係者に提供する。

（年度計画）

引き続き、平成 15 年度に構築したシステムを活用し、個人情報の保護を図りつつ、事業者及び関係者に情報提供を行う。

年度計画における目標設定の考え方

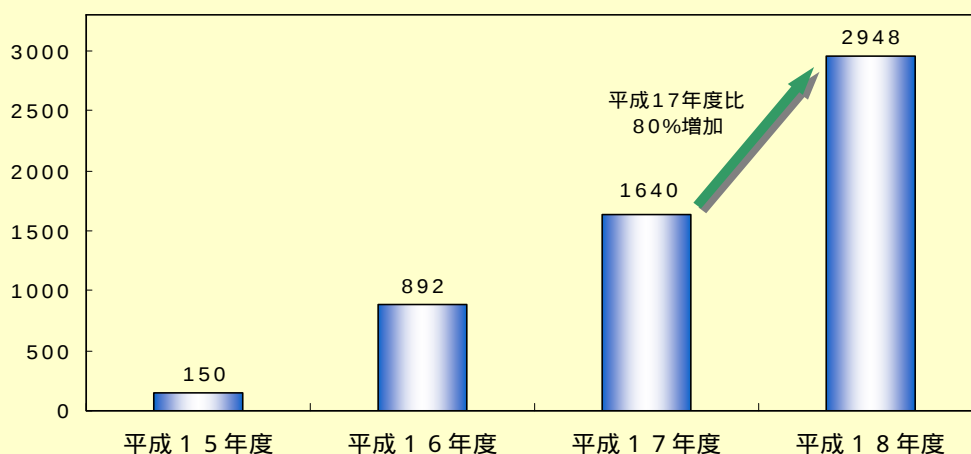
平成15年度に構築したシステムを活用し、事業者及び関係者に情報提供を行うこととした。

当該年度における取組み

平成18年度における取組み

- 事業者及び関係者に対して、2,948件（前年度比80%増加）の情報提供を実施した。

（情報提供件数/件） 事業者及び関係者に対する情報提供件数



【情報提供の例】

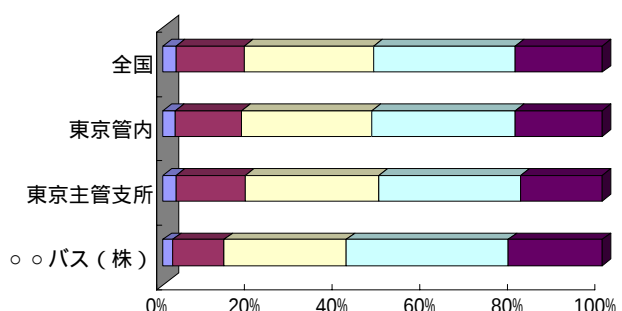
全国と自社とのデータ
（診断項目別）

地域別・事業者別・業態別・
年齢別にそれぞれ抽出可能
（ただし、個人データは非開示）



協調性

1 (不十分) 2 3 4 5 (十分)



その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

（中期目標）

受診者・事業者のニーズや活用状況を適切に把握し、その結果を適性診断の内容、診断結果の提供等に反映すること。

（中期計画）

定期的に受診者・事業者に対する調査を実施し、ニーズ等を踏まえ、適性診断の内容の充実に反映する。

（年度計画）

引き続き、受診者・事業者に対する調査を実施し、調査結果に基づき診断の実施方法等の改善を含めた診断内容の充実を行う。

年度計画における目標設定の考え方

受診者、事業者に対する調査結果に基づき、診断内容の充実を行うこととした。

当該年度における取組み

平成18年度における取組み

- 前年度（平成17年度）に実施したニーズ調査の結果に基づき、下記のとおり、要望の多い項目を優先に改善、検討を行った。

（1）主な改善内容

診断内容の改善：コメント改良が残されていた重複作業反応テストの助言内容について、適性診断結果から予想される運転行動の例を記載し、より具体的に業態別に記述することにより、運転者にとってはわかりやすく、管理者にとっては助言・指導しやすくなるよう改善を図った。

診断機器の改善：本所診断機器のディスプレイ画面を反射の少ない液晶画面に改善した。

平成16年度より導入を開始した改良型診断機器を、平成17年度に引き続き平成18年度においても導入した。

新：280台(+91台)、旧：142台(-71台)、計422台

(新) 反射の少ない液晶画面



諸元

奥行： 610mm

幅： 700mm

高さ：1,380mm

(フット付き→ブース化実現)

(旧) 診断機器



諸元

奥行：1,177mm

幅： 800mm (隣接入°-ス含む。)

高さ：1,350mm

(フット無し)

土曜日の開業：受診者の受診機会を拡大するため、平成18年4月から38支所で月2回、7支所で月1回土曜日を開業することとし、さらに平成19年4月からは50支所中49支所において月2回(第1及び第3土曜日)を開業することとした。

土曜開業支所の推移

	平成17年4月	平成18年4月	平成19年4月
第1・3土曜日開業	35支所	38支所	49支所
第3土曜日開業	6支所	7支所	0支所
平日のみ開業	9支所	5支所	1支所
合 計	50支所	50支所	50支所

(2) 主な検討内容

平成18年12月に「適性診断業務検討委員会」を開催し、適性診断（従来の方法の一部変更）の互換性の判定基準、適性診断（新しい方法）の採用基準、適性診断の改良・改善等について意見を伺った。下記の検討項目を含め、今後の適性診断内容の変更や追加については、従来の診断との互換性や採用基準に合致しているか等の検証を実施した上で、見直しを図ることとした。

■ 適性診断の改良・改善の主な検討項目

- ・ 診断メニューの追加検討案
 - 軽微な事故を起こしたドライバー等を対象に、診断結果に基づいたカウンセリングが受けられるようカウンセリング付きの一般診断（任意診断）を追加
- ・ 診断設問等の追加検討案
 - 睡眠時無呼吸症候群（S A S）に関する設問
 - 疲労蓄積度に関する設問
- ・ 受診慣れ防止対策等の検討案
 - 判断・動作のタイミングのタイミング時間を一定範囲以内で変更可能に改良
 - 危険感受性の場面を実写映像化

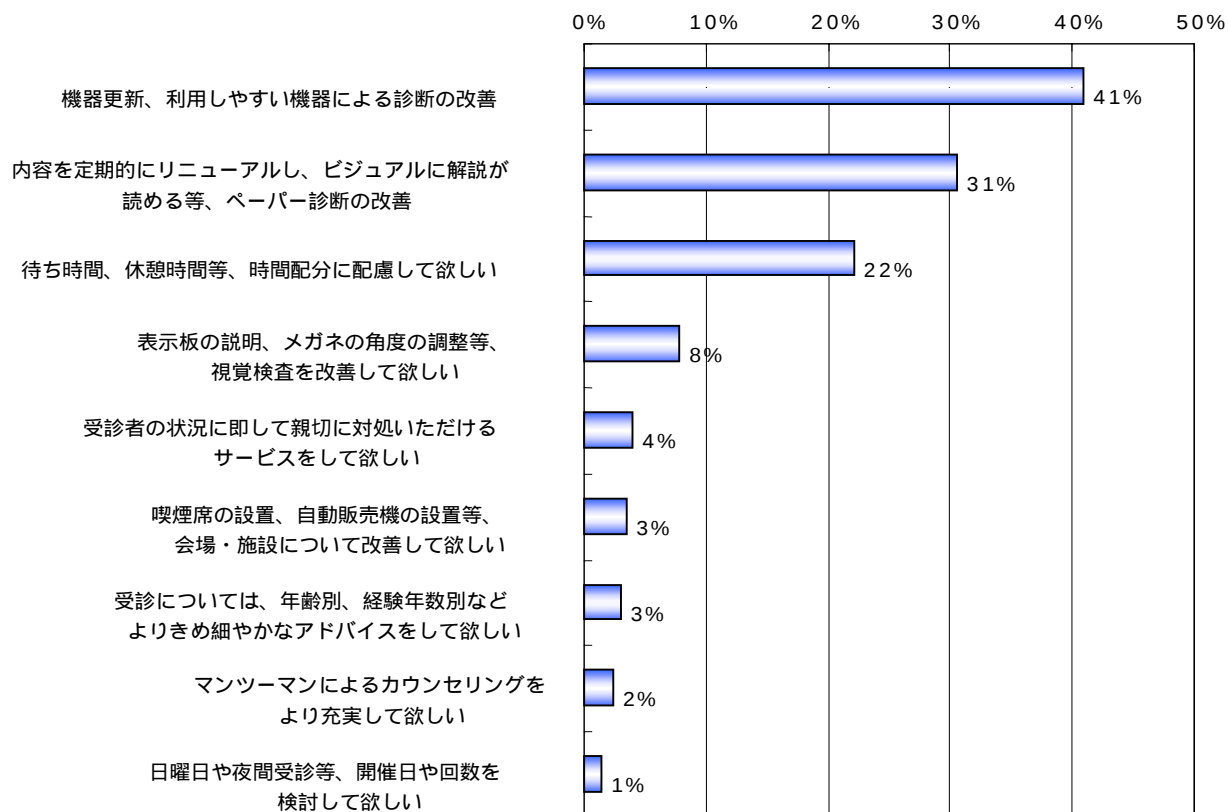
改善案：実写映像化



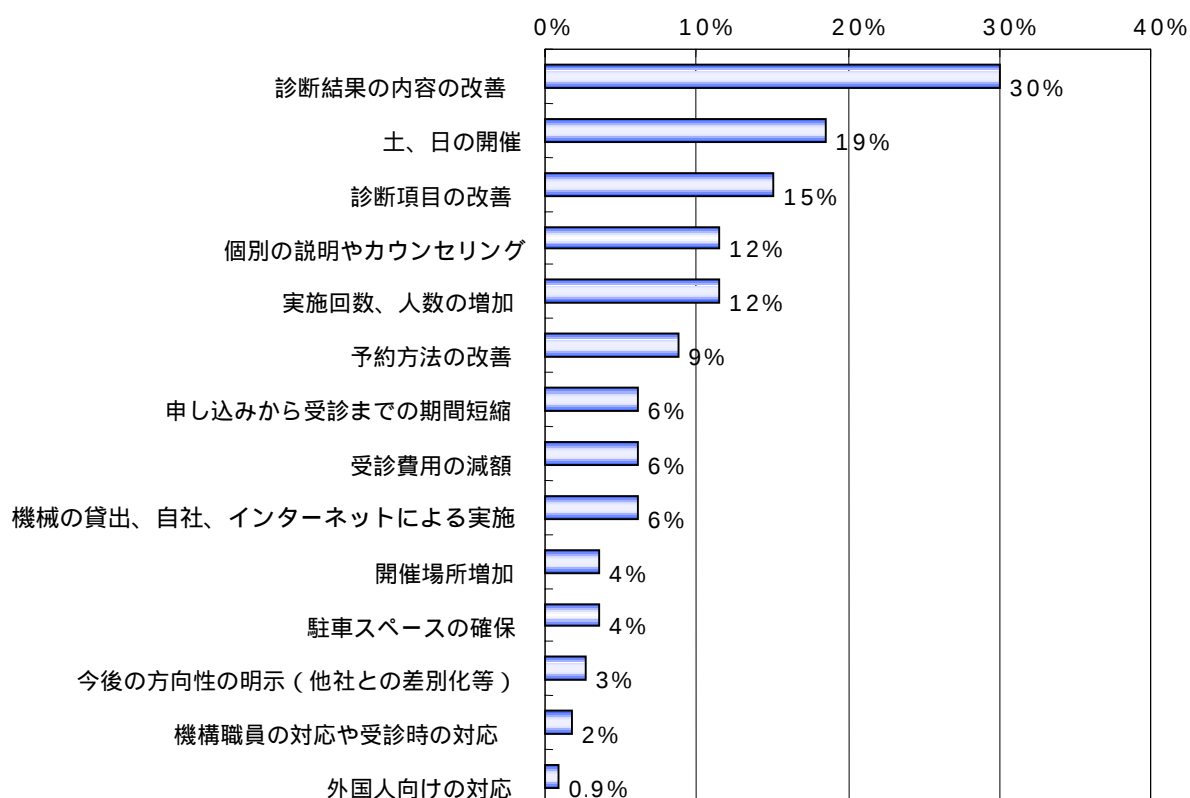
- ## 改善案：レーダーチャート化

<参考> 平成17年度、受診者(1,385人)、事業者(2,000社)に対して調査を行ったところ、
受診者(1,385人)、事業者(1,039社)から回答を得た。

平成17年度調査：受診者の要望項目



平成17年度調査：事業者による適性診断に関する要望項目



(2) 受診者、事業者に対して、調査を実施した。

【調査の概要】

- ・調査期間：平成19年1月～3月
- ・調査対象：上記調査期間における受診者

受診者に対する調査の回収率等

項 目	一般診断	初任診断	適齢診断	特定診断	全 体
受診者数	61,605	30,409	7,365	699	100,078
調査件数	13,292	7,500	1,175	230	22,197
回収件数	13,292	7,500	1,175	230	22,197
回 収 率	100%	100%	100%	100%	100%

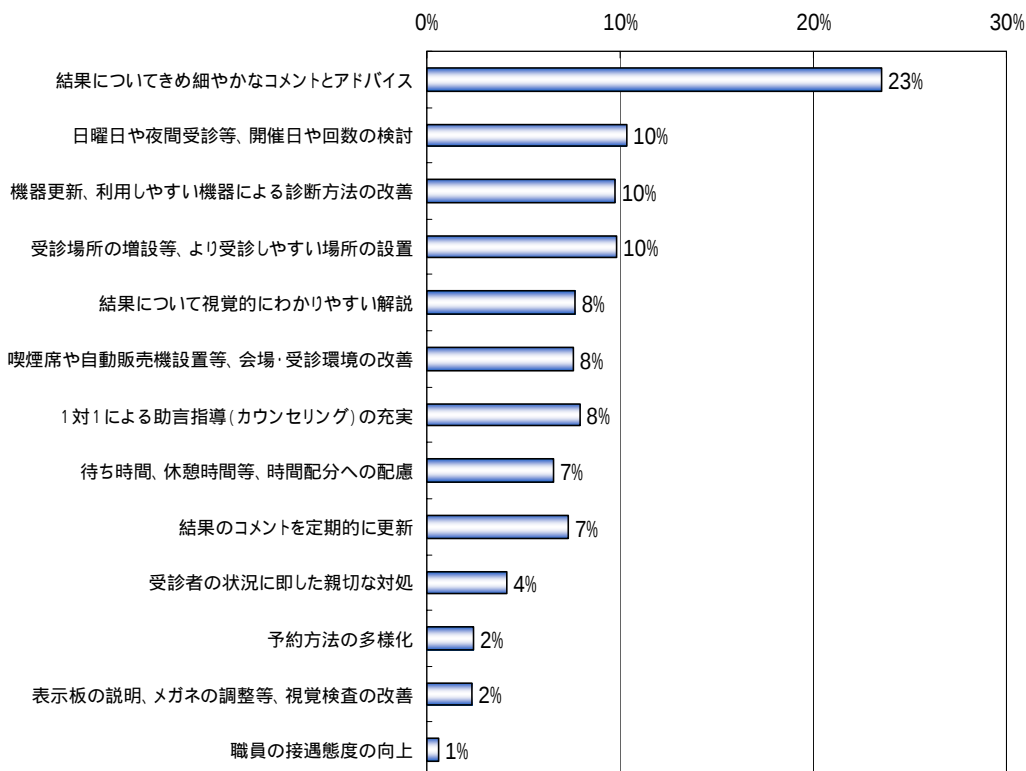
【調査の概要】

- ・調査期間：平成19年1月～2月
- ・調査対象：全支所の対象事業者

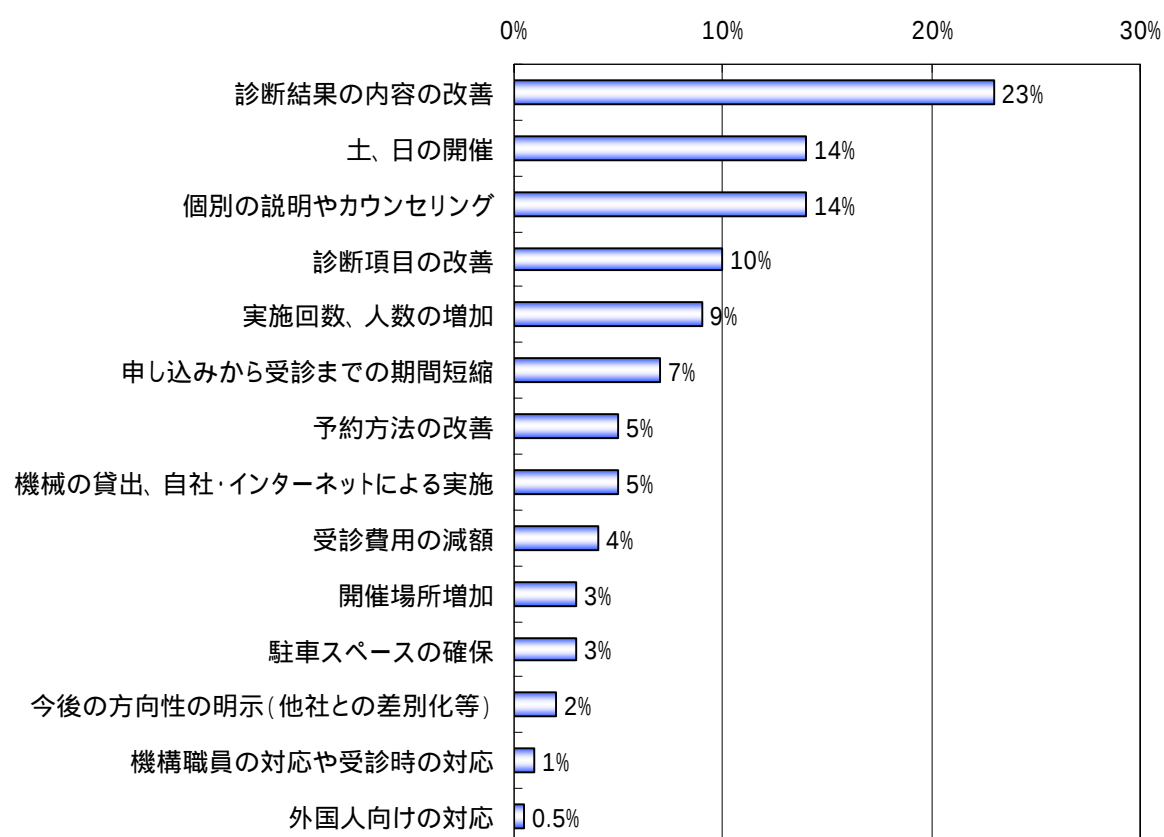
事業者に対する調査の回収率等

項 目	バ ス	ハイク	トラック	全 体
事業者数	4,436	10,445	57,845	72,726
調査件数	316	584	3,166	4,066
回収件数	221	398	1,606	2,225
回 収 率	69.9%	68.2%	50.7%	54.7%

平成18年度調査：受診者の要望項目



平成18年度調査：事業者による適性診断に関する要望項目



その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報

（中期目標）

以上により、事業者の安全対策の充実・改善を促進し、事故防止効果を高めること。

（中期計画）

以上の施策を実施することにより、受診者・事業者に対する 5 段階評価の調査における安全対策への支援効果に関する評価度について、中期目標期間の最後の事業年度までに 4.0 以上とする。

（年度計画）

以上の措置を講じることにより、受診者・事業者に対する 5 段階評価の調査における安全対策への支援効果に関する評価度（平成 18 年度）について、4.0 以上とする。

年度計画における目標値設定の考え方

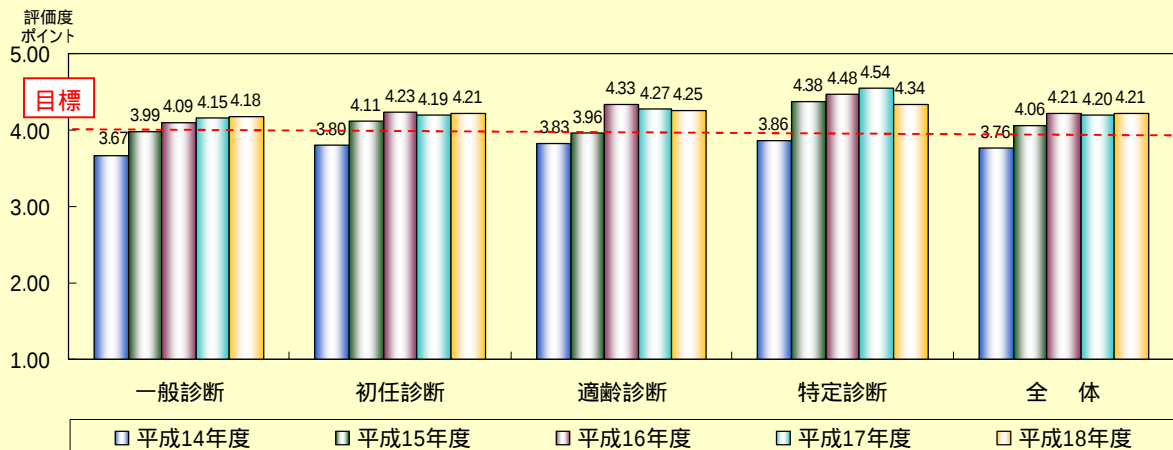
前年度（平成 17 年度）に引き続き、4.0 以上の評価を獲得することとした。

実績値

○ 受診者の評価度

平成 17 年度より全体で 0.01 ポイント向上させ、4.21 の評価を得た。

受診者における安全対策への支援効果に関する評価度



【調査の概要】

- ・調査期間：平成 19 年 1 月～3 月
- ・調査対象：上記調査期間における受診者

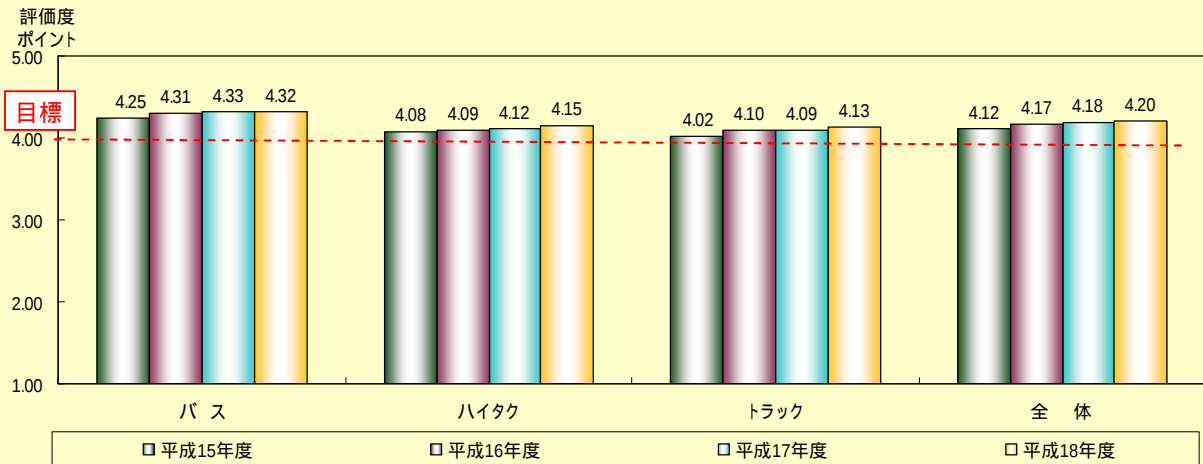
受診者に対する調査の回収率等

項 目	一般診断	初任診断	適齢診断	特定診断	全 体
調査期間中の受診者数	61,605	30,409	7,365	699	100,078
アンケート調査配布件数	13,292	7,500	1,175	230	22,197
回 収 件 数	13,292	7,500	1,175	230	22,197
回 収 率	100%	100%	100%	100%	100%

○ 事業者の評価度

平成17年度より全体で0.02ポイント向上させ、4.20の評価を得た。

事業者における安全対策への支援効果に関する評価度



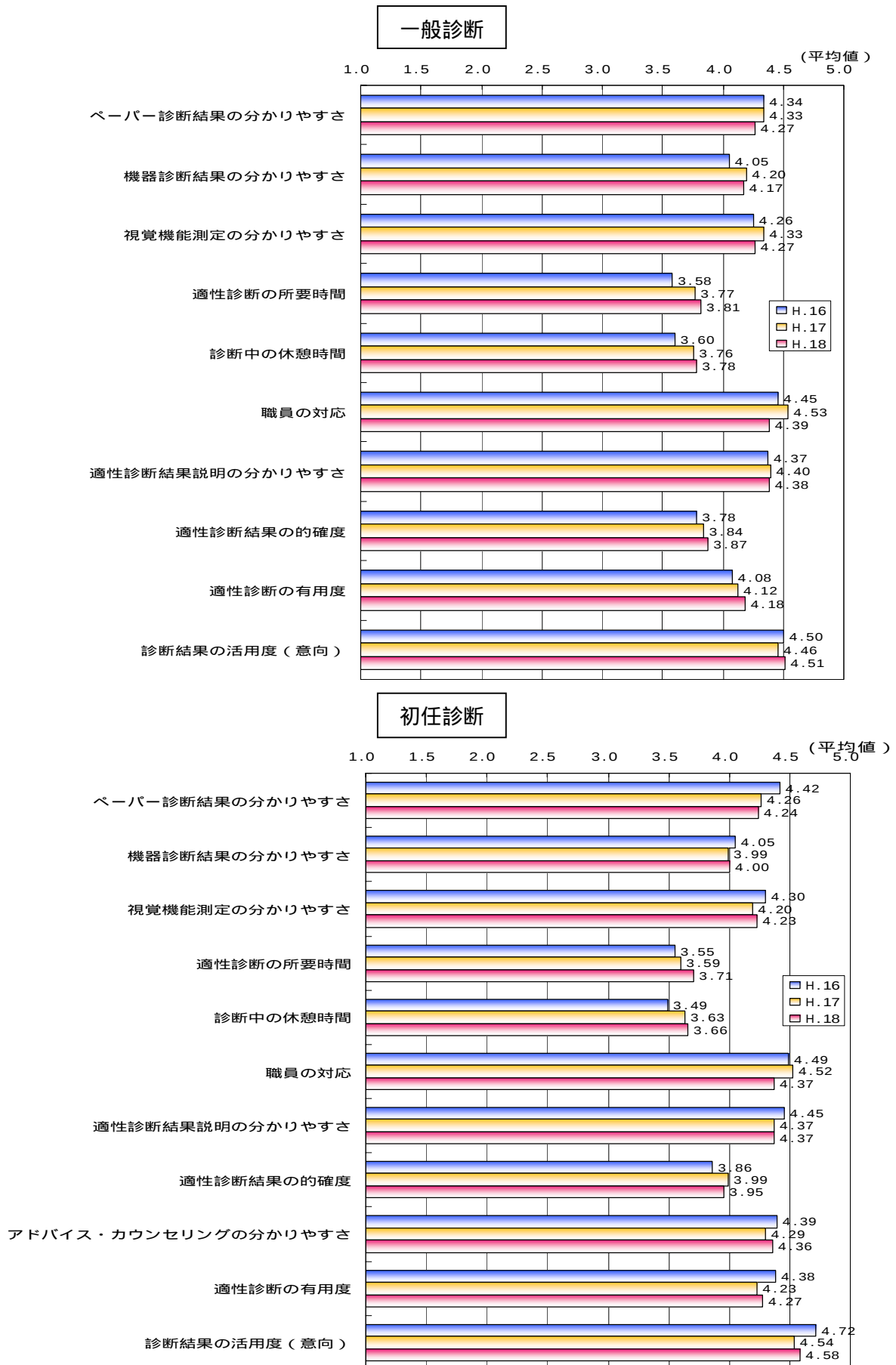
【調査の概要】

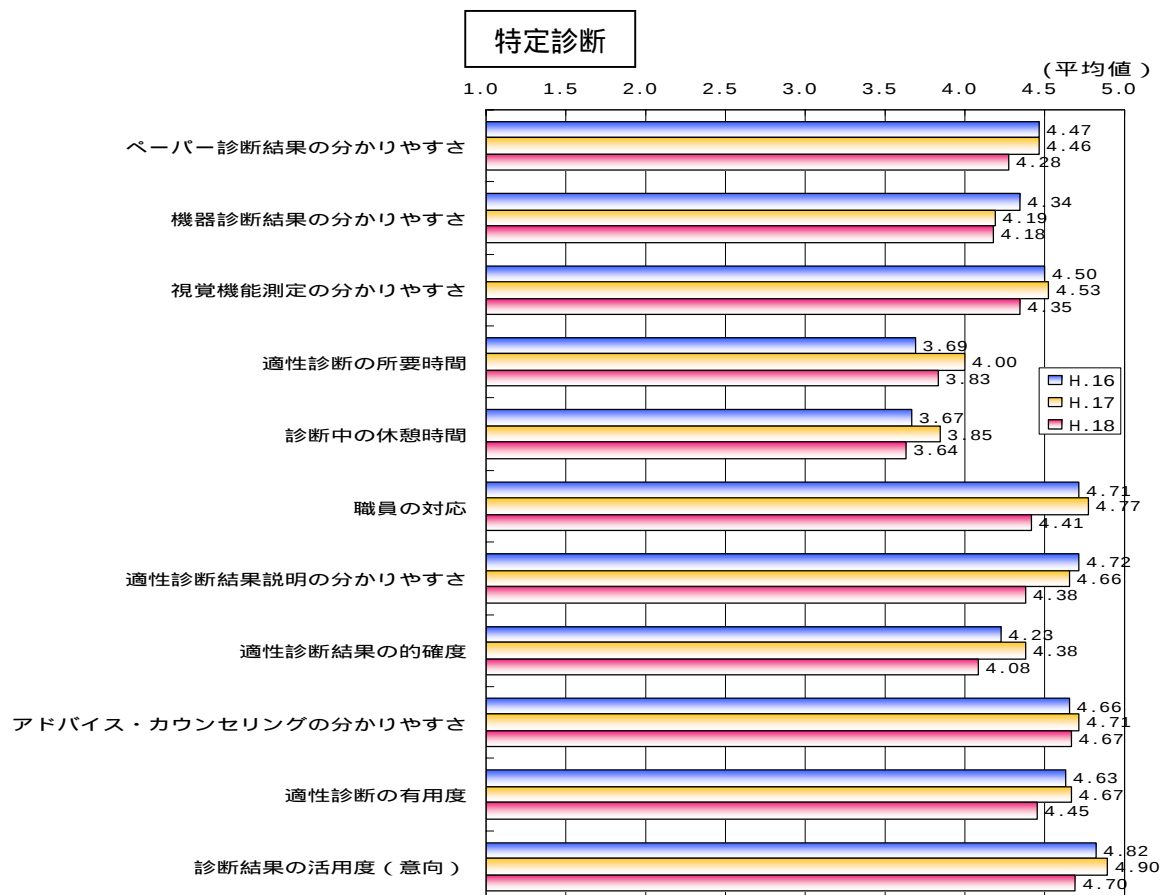
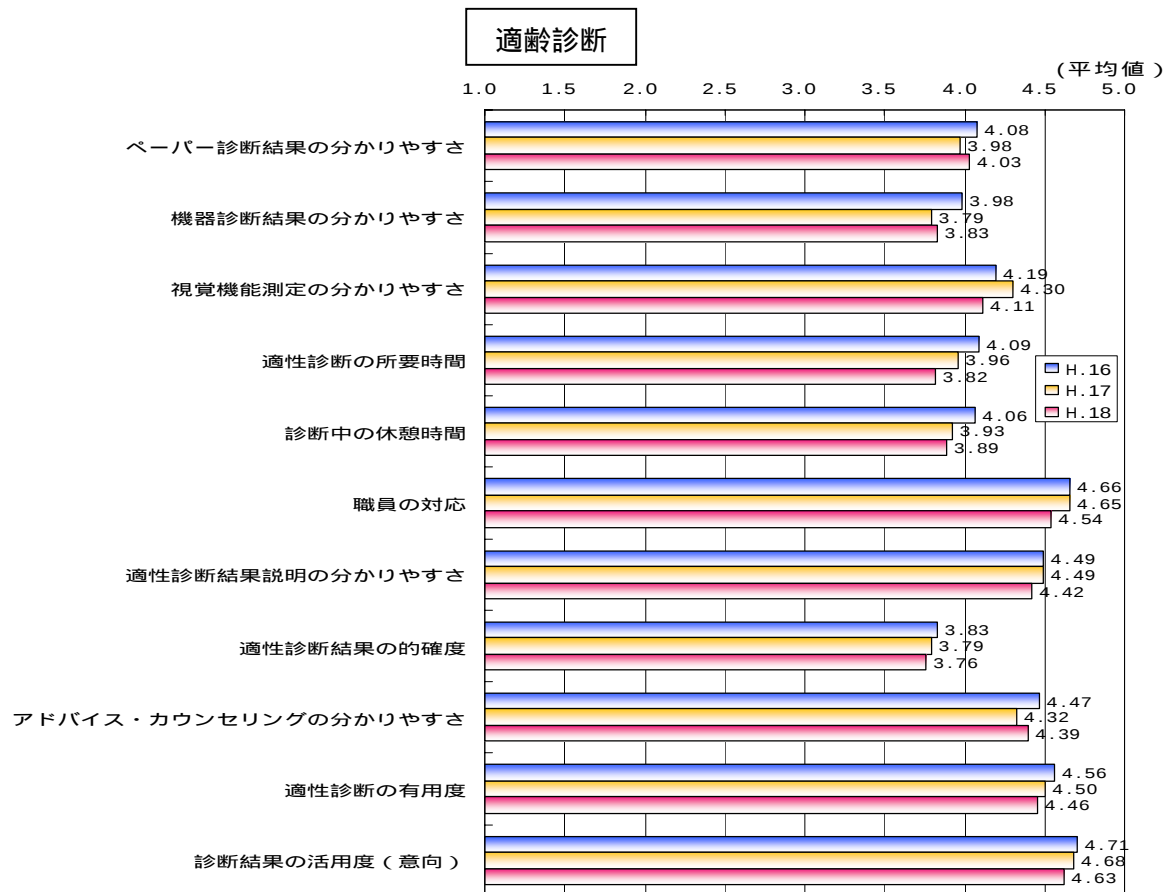
- ・ 調査期間：平成19年1月～2月
- ・ 調査対象：全支所の対象事業者

事業者に対する調査の回収率等

項 目	バ ス	ハイタク	トラック	全 体
事業者数	4,436	10,445	57,845	72,726
調査件数	316	584	3,166	4,066
回収件数	221	398	1,606	2,225
回 収 率	69.9%	68.2%	50.7%	54.7%

適性診断別安全対策への支援効果に関する項目別評価





実績値が目標に達しない場合にはその理由

その他適切な評価を行う上で参考となり得る情報